

## 2. 健康で美しく、人にやさしい圏域（健康で美しい国土の回復）

平成 17 年 3 月から 9 月にかけて当地域で開催された愛知万博（2005 年日本国際博覧会）のテーマは「自然の叡智」である。地球環境問題が深刻化しているなか、中部地方は万博開催地の責務として、50 年先、100 年先を見通して、健康を回復して持続可能な発展を可能とするよう、国土の利用のあり方を明らかにする必要がある。

- (1) 環境への負荷を軽減し、国土の健康を回復する循環型の社会を構築する
- (2) 快適で人と環境にやさしい都市交通社会を目指す
- (3) 美しい風土・風景と良好な景観を回復・創造する



森林から沿岸域までの水・物質循環機能を再構築

### 【主な事業内容】

- ・森林から海に至る水・物質循環再構築（東三河地域における地域戦略プラン等）
- ・水産資源の回復も視野に入れた流域・沿岸域の健康回復（伊勢湾・駿河湾再生等）
- ・より広範な廃棄物に対する静脈物流ネットワークの構築（静脈物流拠点の整備等）

・環境負荷の少ない移動手段、省エネルギー型の移動手段の導入推進

- ・交通事故対策の推進
- ・高齢者等交通弱者にやさしい交通サービスの実現
- ・都市圏における円滑な総合交通体系の推進
- ・連続立体交差事業など交通円滑化の推進
- ・自転車走行空間の創造

地域特性を活かした景観形成

人と環境にやさしい都市空間・交通システムの形成

### 【主な事業内容】

- ・コンパクトな都市構造への転換
- ・交通施策と一体となったまちづくり（人にやさしい交通結節点の整備、都心部へのトランジットモール（歩行者と公共交通機関のみが通行できる道路）の導入、公共交通機関の利便性向上等）
- ・省エネルギー型・環境配慮型の住宅・建築物（グリーン庁舎化（環境保全対策の模範となる官庁施設）省エネルギー型住宅等）の普及促進
- ・次世代エネルギーの積極的な導入
- ・環状道路等幹線道路網の整備による地域間移動の円滑化
- ・ITS（高度道路交通システム）を活用した環境にやさしい交通社会の構築

### 【主な事業内容】

- ・生活圏における水辺や緑地の再生・保全
- ・地域特性を活かした景観整備
- ・歴史的なまちなみの在する地区や都市郊外部における景観形成
- ・景観計画区域の街並み整備等や幹線道路の無電柱化の推進、沿道の屋外広告物の規制

「国土マインド」の育成

### 【主な事業内容】

- ・地域への愛着心や環境貢献に対する豊かな価値観を地域社会に育てていくための、産学官連携による中部独自の人材育成プログラムの創設と展開
- ・総合的な国土学習システムの構築、体験型学習（エクスカーション等）の展開

## ( 1 ) 環境への負荷を軽減し、国土の健康を回復する循環型の社会を構築する

少子・高齢化や人口減少が今後さらに進展していく中で、特に中山間地域においては森林・農地の荒廃が、今後急激に加速していくことが懸念される。これは、単に水源地から河川・海洋までの水・物質循環システムを荒廃させるだけでなく、我が国の食糧自給率をも、より深刻化させる恐れがある。今後は、水源地や伊勢湾等に注ぐ流域圏に施策の範囲を広げ森林や農地の保全を図り、水・物質循環システムの再構築を進め、国土の健康回復を図っていく必要がある。

一方、廃棄物処分場の逼迫や資源の枯渇が懸念される中、循環型社会の構築、環境負荷のない社会の実現が世界の必須課題となっている。こうしたことから、より広範な廃棄物に対する静脈物流拠点の整備や静脈物流体系の構築、物流の環境負荷の軽減、住宅・建築物における省エネルギー化の推進等を図り、負荷ゼロ社会を目指す必要がある。

こうした課題に対応し、健康で美しく、人にやさしい圏域を実現する上では、まず第一に、環境への負荷を軽減し、国土の健康を回復する循環型の社会を構築することが不可欠である。そのため、森林から沿岸域までの水・物質の循環機能の再構築は重要であり、東三河地域における地域戦略プランなどの実現が期待される。

また、伊勢湾や駿河湾における流域・沿岸域の健康回復や、より広範な廃棄物に対する静脈物流ネットワークの構築（静脈物流拠点の整備等）も、循環型社会の実現においては重要な取り組みと位置づけられる。



森林の荒廃

(写真：林野庁提供)

## 水・物質循環システム健全化プログラム（仮称）

### 現状の課題

- ・ 河川水量の減少
  - ・ 河川、湖沼、海域の水質悪化
  - ・ 陸域水面の減少
  - ・ 海浜の減少
  - ・ 山林の荒廃
- 等

### 「国土の健康を取り戻す」総合的取組

水や土砂、生態系に加え、栄養塩類等も含む多様な循環系の再構築をエネルギー利用の効率化も考慮して推進します。  
 持続可能な流域管理手法の方針策定  
 モデル地域における「健全な循環システム計画」の策定  
 関係機関との連携による総合的な計画の実施支援

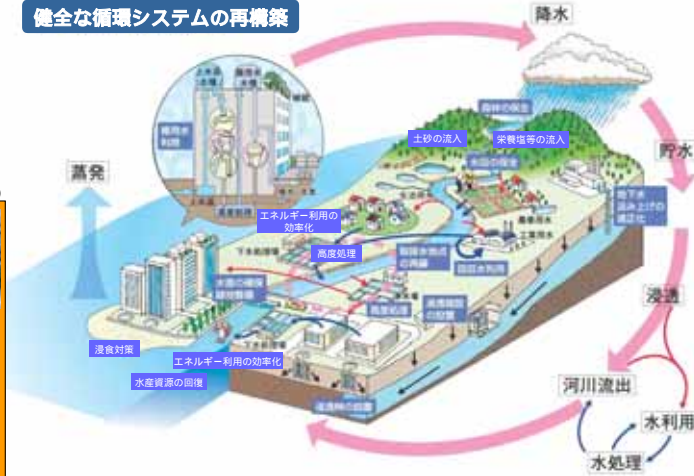
東京都の水面面積  
 (左：1908年 右：1980年)



循環の阻害による弊害の現状（下図）



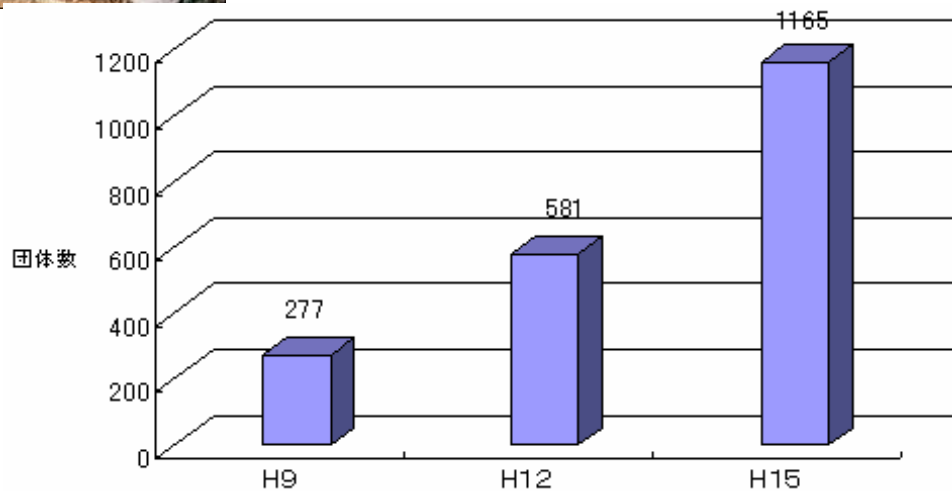
### 健全な循環システムの再構築



## 広がる森林ボランティア



環境保全意識の高まりを背景に、森林整備を行っているボランティア団体数は、平成9年の277団体から平成15年には約4倍の1,165団体へと急増。森林再生の担い手として活躍が期待される。

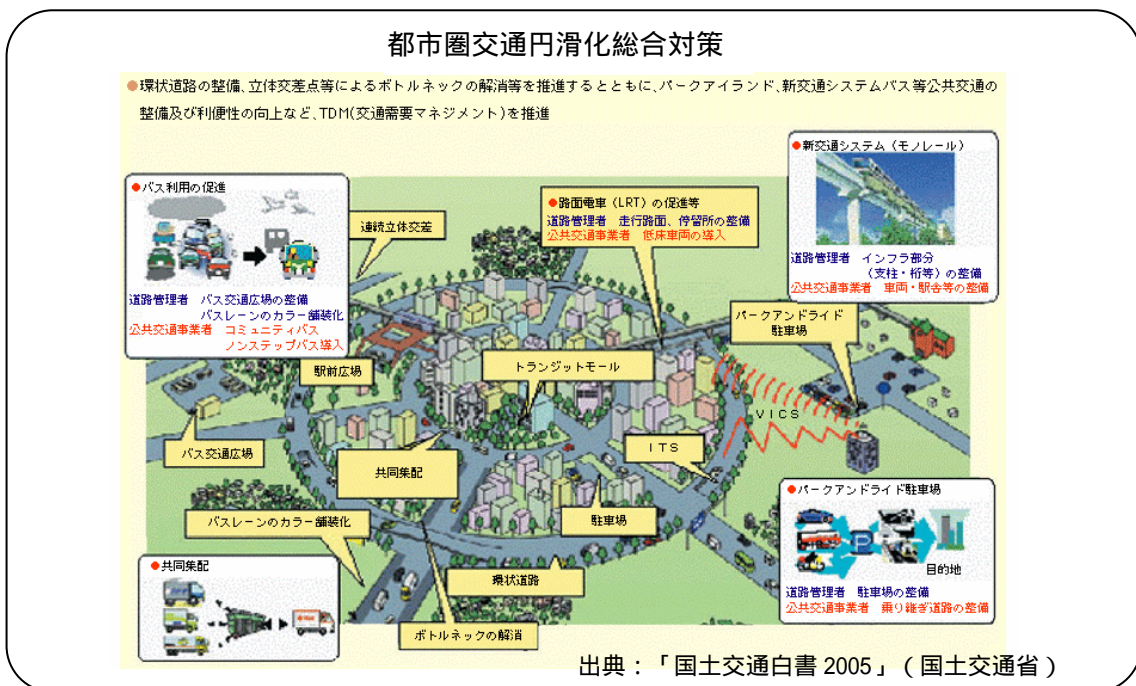


## (2) 快適で人と環境にやさしい都市交通社会を目指す

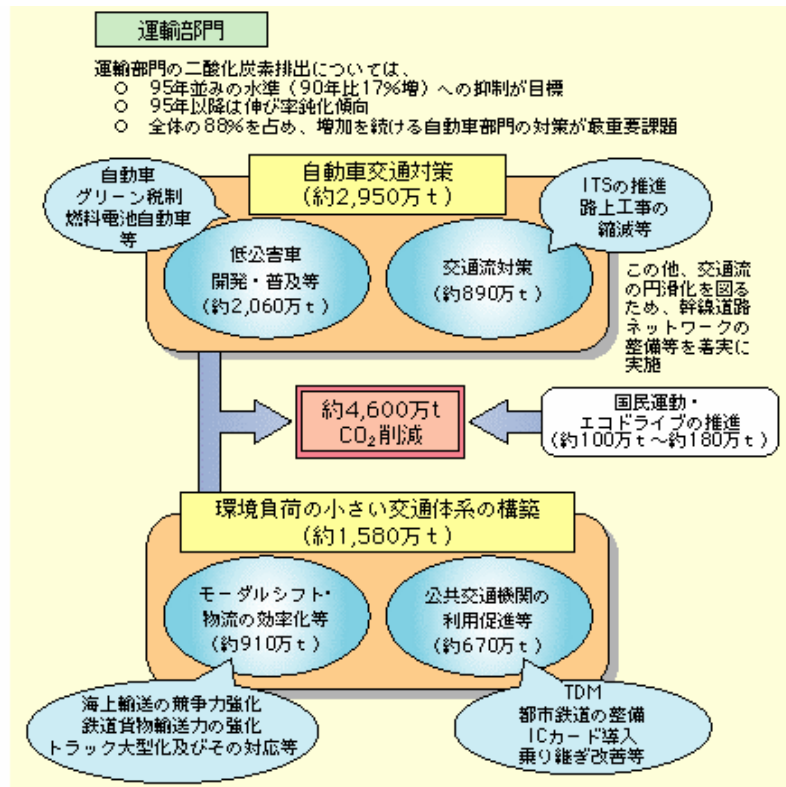
少子高齢社会に対応した交通社会を築くことはもちろん、地球環境問題の観点からは、運輸部門における環境負荷軽減が大きな課題となっている。特に、道路等交通基盤整備や公共交通機関の利便性向上など、ハード・ソフトの連携を通じて適切な交通機関分担を図り、CO<sub>2</sub>の排出抑制に積極的に取り組むなど、環境にやさしい交通社会を実現していく必要がある。

こうした課題に対応し、快適で人と環境にやさしい都市交通社会を目指す上では、生活行動に係る移動が少なく済むコンパクトな都市構造への転換が、根本的な方策として期待される。より着実な取り組みとしては、幹線道路等の渋滞対策や環状道路等幹線道路網の整備による地域間移動の円滑化、連続立体交差事業などによる交通円滑化の推進といった道路整備事業の一層の推進、ITS（高度道路交通システム）の活用、環境負荷の少ない移動手段・省エネルギー型の移動手段の導入推進、高齢者等交通弱者にやさしい交通サービスの実現、自転車走行空間の創造など、人と環境にやさしい交通システムの形成に資する取り組みの積み重ねが求められる。

また、このほか、ヒートアイランド問題や大気騒音問題、近年関心の高まっている公共交通の安全性や交通安全問題など、健康な都市生活を脅かす問題にも的確に対処していく必要性は高く、幹線道路等の交通事故対策や人にやさしい交通結節点の整備、都心部へのトランジットモール（歩行者と公共交通機関のみが通行できる道路）の導入、公共交通機関の利便性向上など交通政策と一体となったまちづくりのほか、省エネルギー型・環境配慮型の住宅・建築物の普及促進、次世代エネルギーの積極的な導入などにより、人と環境にやさしい地域社会を形成することが必要である。



## 国土交通省の地球温暖化対策（運輸部門におけるCO<sub>2</sub>削減）



出典：「国土交通白書 2005」（国土交通省）

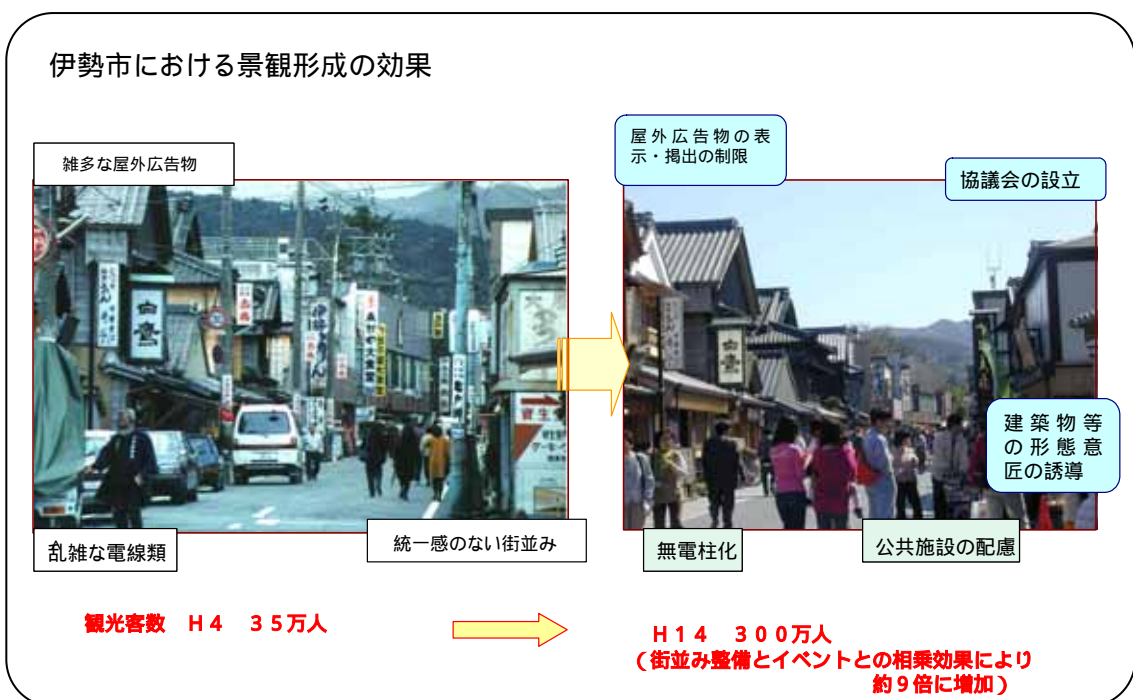
### (3) 美しい風土・風景と良好な景観を回復・創造する

美しい自然景観や都市景観は人々の心に安らぎを与え、心の豊かさをもたらす。しかし今日、地域が本来持っていた原風景や美しい景観、歴史的な街並みが喪失の危機に瀕している。また、コンパクトなまちづくりが志向される中で、まちなかの景観形成や無理に拡張開発がなされてきた都市外縁部をどのように再生するかが問われており、美しい風土・風景の回復、すなわち景観形成は景観政策における今後の重要な課題となる。

地域固有の歴史・文化の保全を図り、地域固有の自然や歴史的な街並み等を活かした景観形成など地域の魅力を高めていくことは重要であり、このため、地域が主体となって進める景観を意識したまちづくりなど、良好な景観の創造に資する取り組みを支援するとともに、生活圏における水辺や緑地の再生・保全を促進し、後世に遺す美しい風土づくりを行う必要がある。

このため、地域特性を活かした景観整備や都市郊外部の景観再生、景観計画区域の街並み整備等や幹線道路の無電柱化の推進と沿道の屋外広告物の規制が求められる。

地域づくりにおいては、担い手となる人づくりが重要な鍵となる。そのため、地域への愛着心や環境貢献に対する豊かな価値観を地域社会に育む、産学官連携による中部独自の人材育成プログラムの創設と展開、あるいは総合的な国土学習システムの構築、体験型学習（エクスカッション等）の展開による、「国土マインド」の育成も、地域づくりの重要な取り組みとして推進していく必要がある。



### 三保の松原の景観の保全



養浜工などの事業により、失われつつある三保の松原の景観を保全している  
出典：「まんなかビジョン」



第9回美しい日本のむら景観コンテストで農林水産大臣賞を受賞した三重県美杉村三多気の桜。地元住民により管理・清掃がなされ、イベントを開催するなど三多気の桜を中心とした地域活性化が取り組まれている。

出典：東海農政局ホームページ

## 主要プロジェクト

### 森林から沿岸域までの水・物質循環機能を再構築

流域における栄養塩等物質の動態と沿岸海域生態系への影響に関する調査・研究  
(モデル流域：豊川流域)

近年顕著化している沿岸海域の生態系の異変と、河川の管理・流域の利用形態の変化に深く根ざした物質動態の変化について調査検討を行い、森林や河川流域が生産する栄養塩類等の連続性の確保や、沿岸海域の生態系の保全を考慮に入れた河川等の整備や管理のありかたについて、中部地方で代表的な閉鎖性水域である三河湾とそこに流れ込む豊川をモデルに検討する必要がある。



栄養塩類の連続性イメージ

水域生物の移動経路（エコロジカルネットワーク）の再生

河川と流域との間を行き来して生活する魚類等の水生生物の生息・生育環境を回復するとともに、地域の生態系を再生する。そのために、河川と流域の水路、池、沼、田んぼ等の水域の連続性を確保し、水域生物の移動経路（エコロジカルネットワーク）の再生に取り組むことが重要である。



イメージ図



## 森林から沿岸域までの水・物質循環機能を再構築

### 徳山ダム建設事業

#### 揖斐川水源地域ビジョン（仮称）

徳山ダム上流域は、希少野生生物をはじめ、豊かな自然環境が残される一方、旧徳山村の全村離村により従来からの森林資源の管理者が不在という特殊事情がある。

こうした状況の下、徳山ダムは、完成すれば貯水量日本一のダムとなるほか、付替村林道の替わりにダム上流域の山林を公有地化することとしており、これらを踏まえ、流域圏の住民共通の財産として、産学官はもとより、NPOや流域住民をはじめ、多様な主体の参加と連携を通じ、豊かな自然環境の保全と、自然環境そのものの利活用を両立させることを目指した徳山ダムの特徴を活かした揖斐川水源地域ビジョンを描き、揖斐川流域の発展に貢献していくことが求められる。



水源地域ビジョン

### 豊かな生態系をはぐくみ、人々に憩いと安らぎの空間を提供する伊勢湾の再生

伊勢湾の再生に向け、水環境の回復、生活空間での憩い・安らぎ空間の充実、生態系の回復を図るため海域と陸域とが連携を図り伊勢湾の再生が求められる。



### 木曽三川河口部自然再生事業

木曽三川下流部は、1965年頃から濃尾平野一帯で起こった地盤沈下やそれに伴う高潮堤防補強工事による高水敷の造成や浚渫などにより、かつての水際部の干潟やヨシ原、ワンドなどの多様な水辺環境が減少している。度重なる水害に対して大幅な河川改修が行われているこの地域では、残存する自然環境を保全するとともに、現存する自然環境を目標として、可能な限り自然環境の再生を図る必要がある。



再生された干潟で遊ぶ子供たち

## 森林から沿岸域までの水・物質循環機能を再構築

### 庄内川中流部浄化事業

水質の悪化が著しい庄内川支川八田川において、流域の下水道整備や特定汚染源での対策と連携しながら、直接浄化施設による浄化対策を推進する必要がある。また、企業公募による浄化実験、水質浄化に関する専門家の監修による新技術を用いた浄化実験、市民と連携した植物を利用した浄化実験を実施することも重要である。



浄化実験施設

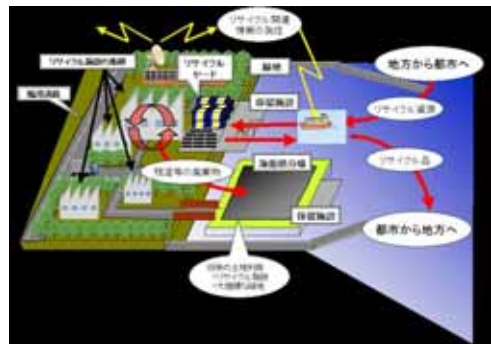


浄化前

浄化後

### 循環型社会を構築に向けた静脈物流拠点の整備推進

循環資源の広域的な流動を促進するため、臨海部において総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）の形成を推進し、循環型社会の形成、環境負荷の低減を促進する必要がある。



## 人と環境にやさしい都市空間・交通システムの形成

### 都市圏交通円滑化総合計画

都市圏の交通円滑化を図り、環境問題等交通に起因する課題を解決するために、交通容量拡大策や、交通需要マネジメント、多様な公共交通機関間の円滑な結節及び乗り換え誘導施策などの総合的な対策を推進する都市圏交通円滑化計画を策定し、積極的な取り組みが求められる。

ガイドウェイバス



リニモ

### 環状道路の整備

都市圏域内に流出入する通過交通を排除するとともに、分散導入機能、バイパス機能、緊急時の迂回機能などの効果が期待され、都市圏の秩序ある発展を図る基盤として大きな役割を果たす環状道路の整備を引き続き推進することが求められる。



### 交通結節点の整備

一般国道1号静岡駅周辺整備のような国道と駅前広場の一体的な整備と周辺地域の連携、鉄道やバスの連結、地下道部のバリアフリー化などの利用者が使いやすい交通結節点の整備が必要である。



## 人と環境にやさしい都市空間・交通システムの形成

ITS(高度道路交通システム)を活用した環境に優しい交通社会の構築

環境負荷を軽減するため、ETC(ノンストップ自動料金収受システム)普及、スマートIC(安価な建設・管理コストで運用できるETC専用IC)、交通需要マネジメントを推進する。また、電子ナンバープレートやVICS(道路交通情報通信システム)を活用することにより、自動車交通の分散や円滑な走行支援を目的としたシステム構築を推進することが必要である。

ETC

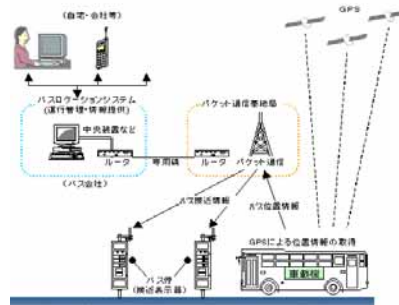


電子ナンバープレート



バスロケーションシステム

GPS等を用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板や携帯電話、パソコンに情報提供するシステムの導入を促進し、円滑な移動を実現するための情報システムを構築することが必要である。特に遅れている高速バス路線などへの積極的な導入が望まれる。



次世代エネルギーの積極的な導入

CO<sub>2</sub>の排出量削減対策の推進のため、圧縮天然ガス(CNG)自動車、電気自動車、メタノール自動車等の低公害車の普及を促進するとともに、従来の自動車と比較してエネルギー効率が格段に高い、燃料電池自動車の実用化に向けた開発を推進する必要がある。



## 人と環境にやさしい都市空間・交通システムの形成

環境負荷の少ない移動手段、省エネルギー型の移動手段の導入推進

地方自治体・交通事業者が一体となった「環境的に持続可能な交通（EST）」実現に向けた取り組みが求められる。



交通事故対策の推進

幹線道路等の安全性を効率的・効果的に高めるため、事故率の高い事故危険箇所において、交差点改良等の事故抑制対策を集中的に実施することが必要である。

（写真）交差点改良事例

事故抑制対策として、交差点内でのカラー舗装化を実施



高齢者等交通弱者にやさしい交通サービスの実現

鉄道駅などで移動に困難を感じている人を積極的にお手伝いするボランティアを普及させることを目的にボランティアモデル事業を展開し、「心のバリアフリー」社会の実現に向けた取組を推進する必要がある。



自転車走行空間の整備

沿道の地域等と連携・協力し、自転車利用への理解とマナー向上を働きかけるとともに、自転車道と歩行者道の構造分離等により、安全・快適な自転車走行空間ネットワークの整備が求められる。



## 地域特性を活かした景観形成

### 地域特性を活かした景観整備

美しい景観形成やにぎわいのある地域づくりを推進するため、重要伝統的建造物群保存地区や景観計画区域等の地域においては、地域との協働により地域特性を活かした道路景観の整備の取り組みが必要である。



### 幹線道路の無電柱化

電線類の地中化は災害時の安全性が向上されるとともに、電柱や架空線が取り除かれることから道路空間がすっきりとし、美しい街並みとなり、また、歩道が広くなることでバリアフリーにもつながることから、積極的に取り組む必要がある。



### 自然と調和した美しい農村景観の保全

農村における自然と調和した美しい景観を地域固有の資源として見直し、美しい景観を活かした地域づくりや都市部との交流を推進し、地域の活性化を図ることが求められている。



岐阜県恵那市岩村町の農村景観

## 「国土マインド」の育成

### 人材育成プログラムの創設と展開

地域への愛着心や環境貢献に対する豊かな価値観を地域社会に育むため、産学官連携による中部独自の人材育成プログラムの創設と展開が求められる。



環境レンジャー活動風景



ボランティア・サポート・プログラムによる道路美化活動

### 国土マインド豊かな人材づくり

地域・国土づくりの担い手として、総合的な国土学習システムや、体験型学習（エクスカーション等）の展開によって、「国土マインド」豊かな人材の育成に取り組む必要がある。



現地での体験活動



専門家によるガイダンス